

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 国語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"> • おおむね授業に意欲をもって取り組み、学習に積極的な態度である。 • 話し合い活動は、どの生徒も意欲的に取り組める。 • 論理的な思考、表現力のつたなさ、批評的な視点をもてない点に課題が見られる。 • 文法理解に課題が見られるが漢字については積極的に取り組む様子が見られる。
学力向上を図るための調査	<ul style="list-style-type: none"> • 読解問題の正答率は良好であったが、文法や漢字など知識を問う問題に間違いが多く見られた。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 宿題や提出物への取り組む姿勢は概ねしっかりと行えるが、少しずつ個人差が生まれてきている。
- 物語や詩など叙情的な読み取りと比較し、説明的文章の読解が苦手である。また、「話す・聞く」「書く」分野での批判、批評的内容に苦手意識が強い。
- 文法理解については苦手意識が強く、授業中は理解していても、自宅学習で復習をあまり行わないことから、取り組みが消極的である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
生徒同士学び合う機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"> • グループワーク後のフィードバックの時間を確保し、生徒同士で学び合う機会をもつ。 • 文法理解についても同様にグループワークを取り入れる。
基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> • なかなか漢字を覚えられない生徒のため、漢字テストを継続的に行う。 • 書く力を養うために、要約や短作文の練習を繰り返し行う。また、書くことに苦手意識をもたせないために創作などの活動も取り入れる。
振り返りの充実	<ul style="list-style-type: none"> • 毎時間どのようなことを学習したか振り返り、自分の分かったこと、分からなかったことを自覚するために、ワークシート等を活用する。 • 授業の初めには、毎回前時の振り返りを行う。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 社会】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業規律は確立されている。意欲的に授業に臨む生徒が多く、発言も積極的だが偏りがある。授業内容のメモをしたり、聞き取った内容ノートにまとめる力が身に付きはじめている。基礎、基本の知識の定着には差ができてはじめている。思考力・判断力・表現力等で課題を解決する力が育っていない生徒がいる。グループ活動は積極的だが、内容が深められていないときがある。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	<ul style="list-style-type: none">ABの層よりもCDの層の方が多く、歴史分野の正答率が低かった。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 既習事項の確認を徹底し、基礎、基本の内容の定着を図るため、様々な場面で復習の機会を増やす必要がある。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を通し、課題を解決する力と学習内容を深める必要がある。
- 家庭学習の習慣を定着させ、内容、質をより充実させる必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none">前時の学習内容の要点、重要語句等を授業の導入前に確認する時間を設ける。授業内で復習事項の確認を随時取り入れていく。単元毎に復習ワークを必ずやる。目標を必ず提示する。
課題解決に必要な力の育成	<ul style="list-style-type: none">読み取る力、自分の考えを書く力、述べる力を高める機会を1時間の授業で必ず取り入れる。思考する場面においては十分に考える時間を確保し、習慣化させる。グループ活動を取り入れ、意見交換をする時間を確保し、多面的な考え方ができるようにし、他者の意見を取り入れ、内容を深める。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 数学】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	「わかるようになりたい」、「頑張ろう」という意欲は高く、支え合って学習する姿勢も多く見られる。既習事項の定着が不十分であったり、複数の事項を用いる課題になると混乱してしまったりすることから、一人で学習を進めることが難しく、一人一人に寄り添った支援を必要とする。また、そのような支援を求める傾向が強い。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	計算や式を立てることなどの求めるものが明確な問い、また、立体の捉え方についての問いでは、それらの力が比較的発揮されている。一方で、文・式(文字式・方程式)・グラフ・図を読み取る力や読み取ったことを文や式で表現する力が弱い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- * 授業中の意欲を、家庭学習につなげさせる。
- * 既習事項の定着を図る。
- * 既習事項を用いる力、また、複数の既習事項を関連させて考える力を育てる。
- * 文を丁寧に読み、粘り強く解釈しようとする姿勢を身に付ける。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
既習事項の定着・活用 授業展開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> * 授業や課題解決の見通しをもたせるために、その時間に必要とする既習事項の復習や類似事項の提示の仕方を工夫する。 * 習熟の遅い生徒のグループにおいては、指導計画を工夫してスモールステップで授業を展開する。 * 『個で取り組む→グループで交流(または、支え合い学習)する→全体で交流・確認する』という流れを、指導計画を工夫してできるだけ多く取り入れる。 (「自分の考えをもち表現する」場を多く取り入れた授業展開の工夫) 例えば、 <ol style="list-style-type: none"> 1 グループで問の相互〇付けをさせる。 2 やり方が複数ある課題については、個で複数のやり方を考えさせ、時間配分を多めに計画してグループで交流させる。 3 文章題については、文章の解釈も交流させる。 → この交流のなかでの生徒相互の気づきが深い学びとなり、そのことが主体的な学びを促すよう工夫する。
定期考査	<ul style="list-style-type: none"> * 観点【数学的な見方・考え方】の問題(主に、文章題)の達成率が低い。授業中に扱った問題についてはクリアできることも多いが、文章表現を改める問題や授業中に扱っていない問題については一層顕著である。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 理科】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・授業では静かに話を聞くことができる。・一部の生徒は大変意欲的に取り組んでいるが、全員が意欲的に取り組んでいるとはいえない状況がある。自分から手を上げる生徒は偏っているが、指名されて発言するときは、どの生徒もがんばって発言しようとしている。・基礎、基本の知識の定着は一部の生徒は十分であるが、全体を通すと不十分である。授業の中での印象的な内容の部分やわかりやすい部分は全体的に比較的よく定着している。・表現力が必要な発問にしっかりと答えられる生徒もいるが、全体的にはそうした問いにしっかりと答えることを苦手とする傾向が見られる。・学力向上をはかる調査では、D層（下位層）の生徒の割合は東京都平均と比べ少ないが、A層（上位層）の割合は東京都平均より少ない。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・基礎・基本的な内容の部分に十分に時間をかけ、これは必ず習得して欲しいという内容を、できるだけ多くの生徒に習得させる。それと共に、発展的な内容もできるだけ取り上げ、理科が得意な生徒をさらに増やしていく。
- ・一つ一つの単元にできるだけ興味をもたせられるよう、演示実験などを増やす。
- ・授業での発問やワークシートの中での表現力の育成をはかる必要がある。
- ・家庭学習では、日常の学習と共にテスト前の学習を十分にさせる必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎基本の 定着	<ul style="list-style-type: none">・日頃の家庭学習では、教科書を読むなどの予習を促す。・考査前の準備としての家庭学習は、基礎基本の部分を中心に習得してくるよう、学習すべき内容を再確認するなどし、十分な学習を促す。・多くの生徒が苦手と思われる部分には十分に時間をかける。・授業開始時に本字の目標を十分に示す。・タブレット画像や動画の活用と共に、実際に見せる演示実験も増やし、生徒が内容に興味関心をもてるようにする。
思考力・表現力 の育成	<ul style="list-style-type: none">・発問の際、単純に用語を聞く発問ばかりではなく、解答に表現力が必要な発問を増やす。また、十分考える必要がある発問も必ず取り入れる。・実験レポートなどの作成では、必要な内容を十分書かせると共に、主語述語が明確なわかりやすい表現、結果を考察に十分生かせるような書き方を指導する。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 音楽】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。授業を楽しみに来ている生徒が多く、実技面では各々、実力を付けてきている。しかし音程が不安定になるため、きれいなハーモニーを奏でることが難しいが、全体指導を繰り返し行うことで解消できることと考えている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域・分野にに応じて、様々な指導を行っているが個人差がある。例えば歌唱においては、声の響きを感じ取ることや双方の声を聴きながら音程を合わせていくことが、あまり身に付いていない。また、鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことができていないため、描写音楽を中心に鑑賞を進めていくことが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT 機器の 効果的な活用	<ul style="list-style-type: none">グループで歌声を録音し、改善する点を話し合わせ、その後の練習に生かす。
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">発声練習を充実させ、豊かで力強い声で歌えるよう発展的な技能を身に付けさせる。合唱を通して、お互いの声を聴き合うことで豊かな響きを奏で、互いに高め合う姿勢を作る。
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none">歌詞を声に出して読み、「歌詞」と「旋律」の関連性を感じ取る。歌詞の意味を理解することで、語りかけるような歌唱へつなげられるようにする。より高度で豊かな表現ができるよう、さまざまなアプローチで音楽的要素の定着を図る。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 美術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">新たな課題に対して習得した技法を使って意欲的に取り組んでいる。美術の広がりや美的体験が身に付いていない生徒がおり、想像力を十分に引き出せていない面が見られる。作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする場合がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

<ul style="list-style-type: none">与えられた課題に対して、自己の想像力を働かせて美的に表現しようとする習慣が身に付いていない。豊かな表現力は、自らの発見において定着できるものであることを体験的に理解させることが課題である。課題解決に対する見通しをもたせる取組を行い、目標をもって主体的に取り組もうとする態度を習慣化させるとともに、美的体験に基づく個性としての表現力を身に付けさせることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none">効果的な表現方法が理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットの活用で映像や画像を例示し、視覚的に把握させる。
見通しと 振り返りの工夫	<ul style="list-style-type: none">課題作品の主題をワークシートにフィードバックさせて、記録、スケッチさせることを通して、自分の良さを見付け、人との違いを認めさせ、個性としての表現力を身に付けさせる。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 男子保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。
立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする、問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足していたり、あるいは未習得であったりする生徒が見られるので、生徒一人一人の特性に応じた、きめ細かな指導が課題となる。特に、器械運動に関する経験が不足している。
東京都統一 体力テスト	長座体前屈は東京都の平均・全国平均ともに上回っており、柔軟性がよいことが分かる。また、持久走は東京都平均を上回っている。一方、握力、立ち幅跳びは東京都平均・全国平均から大幅に下回り、筋力・瞬発力の向上に努める必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

保健体育の授業での運動についての思考・判断では、教え合いを通じた言語活動を苦手とする傾向が見られる。授業内でのグループ活動内の話し合いの機会を増やすなど、自らの考えを様々な場面でアウトプットできるようにするのが課題である。また、関心・意欲・態度の観点で見ると、苦手な分野に積極的にチャレンジをしない傾向が見られる。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 体力・学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動の徹底による迅速かつ安全な行動。 補強運動の強度を変える。 各競技の特性に応じた準備運動。コーディネーショントレーニング。 各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動の実施。 多様なグループ活動内の教え合いによる言語活動の充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本、技能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 技能差に応じた課題設定。 運動の特性理解と反復練習等による基礎基本、技能の向上の定着。 教え合いを通し、グループ内から全体の自己肯定感の増進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 教材の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 技能差に応じた教材教具の工夫と場の設定。 実際の指導場面による適切な教材教具の工夫と場の設定。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 女子保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目毎に運動に対する積極性に差がある。運動に対して、関心意欲を引き立てることが課題。また、協力したり、周りに目を配ったりするなどの協調性がある生徒が多い。
東京都統一 体力テスト	全国平均と比べ、特に握力、長座体前屈、立ち幅とびに課題がある。筋力、柔軟性、瞬発力の運動能力を伸ばす運動を継続的にやっていく必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

保健体育の授業での運動についての関心意欲態度では、失敗することを恐れて、なかなか挑戦することについて課題が見られる。また、自己の成果や課題についての理解を苦手とする傾向があるため、思考判断し、自身の考えを深くすることも課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 体力・学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動の徹底による迅速かつ安全な行動。 補教運動でストレッチング、タオル絞り、サーキットトレーニングの実施。
<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本、技能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 各競技の特性に応じた準備運動。コーディネーショントレーニング。 多様なペア・グループ活動内の教え合いによる考えを深める活動の充実。 個に応じた課題設定の明確化。 運動の特性理解と反復練習等による基礎基本、技能の向上の定着。 教え合いを通し、グループ内から全体の自己肯定感の増進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 教材の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 技能差に応じた教材教具の工夫と場の設定。 実際の指導場面による適切な教材教具の工夫と場の設定。 関心意欲を高めるためにICT教材の活用。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【 技術 】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・男女間の仲は良く前向きな授業態度であるが、40人学級で人数が多いためか、時折、消極的な時がところがある。・定期考査では、知識の定着が不十分なことによる誤解答が見られた。ノートやワークシートなどの記入内容（学習の記録）に差があることが原因と思われる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

授業態度は静かによく聞いているが、定期考査の結果につながっていない場合がある。授業の見通しをもつことができるように授業展開の工夫をし、基礎・基本の定着のために、学習内容の記録を取る習慣を確実に身に付けることが必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
作業形態の工夫	<ul style="list-style-type: none">・4人班の小規模班で役割分担を明確にして協力をすることで、作業中の助け合いはもちろん、準備や片付けも含めてお互いがスキルアップできる学習環境を整える。
ICT 機器の利用 知識の定着	<ul style="list-style-type: none">・学習のねらいや授業内容をより明確に知らせ、授業の見通しをもたせるため、授業の始めにプレゼンテーションソフトを使用する。・作業動画の視聴により、興味・関心をもたせ、理解の定着を図る。・ノートへの記録がしやすいように、プレゼンテーションのスライドにさらに工夫をする。
作業の視覚化 教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">・生徒が興味・関心を抱く実用的な教材を選定する。また道具や工具の扱いや動画の視聴をすることで作業の見通しをもたせ、製作経験の不足を補う。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【 家庭 】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業における規律を守り、意欲的に取り組んでいる。ものづくりの好きな生徒が多く、意欲的に作業している。小学校で学習した技能が身に付いていない生徒に対しては、教え合って作業を進めている。課題に対しては、説明をしっかりと聞き、よく考えることができる生徒と自分だけで取り組むことが難しい生徒との差が見られる。また、集中力や意欲や技能に課題が見られる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

実習作業への関心・意欲は高いが、作品づくりの技能には個人差があるため、進度に差が付きやすい。話の聞き方や集中力の工夫により改善できることを理解させる必要がある。実習作業の苦手な生徒に対しては、特に手助けとアドバイスをを行い、やる気を持続させることが必要である。生徒同士での教え合いも効果的である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">実習作業において、まず、説明をしっかりと集中して聞き、分からないことはそのままにせず、積極的に質問をする習慣を付けさせていく。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">利用頻度が高く、比較的つくりやすいバッグの製作をする。ICT機器を用いたり、実物を提示したりして授業を行い、学習内容の確認と定着を心がける。
主体的・対話的で深い学びの工夫	<ul style="list-style-type: none">既習事項や実生活での体験を踏まえ、よりよく生活するための方法を考え、グループでの意見交換や発表をし合うことで、自分の生活を振り返り、実生活に生かせる力を付けさせる。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 英語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律はほぼできている。 ・ 挨拶や簡単な英語のやりとりは前向きに、積極的に取り組める生徒が多い。 ・ 話す活動であるペア活動やグループ活動には、意欲的に取り組める。 ・ ALTや教師に対して、英語で話すことをチャレンジする生徒が多い。 ・ 書く活動に関してはまだ力がついていない生徒が多い。 ・ 家庭学習の習慣が身に付いていない生徒もいる。 ・ 提出物や小テスト、定期テストの結果を見ると、諦めずに頑張ろうとしている生徒が多い。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	<p>外国語理解の能力を試す問題で、読むことの正答率が低いものの、聞くこと問題の正答率は、77%以上あり、英語を聞いて理解する力は高いといえる。一方で、外国語表現の能力を試す問題の正答率が低く、書く力に課題がある。長文を理解し、必要な情報を正確に取り出したり、比較・関連付けて読み取ったり、本文の意図や背景を理解・推論して解決する力が低いのが現状であるといえる。</p>

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・ 英語に対する抵抗力はなく、話す活動では積極的に取り組む生徒が多い。英語学習に対しての意欲も感じられる。しかし、英文をしっかりと理解し、問われた質問に対して正しく答えるための読む力・書く力の向上が課題である。
- ・ どの生徒にも、「英語で話す」機会を与えることと、「間違いを恐れずに楽しんで学ぶ」という気持ちをもたせることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本の徹底した授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で学習事項の内容理解と理解した内容を徹底的に音読し、ある程度まで授業内で定着させる時間を、様々な参加型の活動を通してもつ。こうすれば、生徒は、ある程度定着した状態で、楽に家庭学習に取り組むことができる。
分かりやすい授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器を授業の中で効果的に活用し、視覚的な情報からも理解を促す。 ・ 授業内で学習事項の内容理解と理解した内容を徹底するため、パターンプラクティスを実践し、授業内で定着させる時間を確保する。 ・ 適宜、その場で日本語の簡潔な解説を加え対応する。
言語活動を中心とした授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を育成するために、バランス良く授業内に入れる。 ・ 「書くこと」については、毎回宿題を出すこと、朝テストを「書く」題材にして定着させる。 ・ 授業内で、話す活動の時間を十分にとり、自分の考えを表現する楽しさを感じさせながら、モチベーションを上げ、家庭学習につなげる。 ・ ペアワークやグループワークを通して、基礎的な英語を用いて、身近なことを英語で表現できるような取り組みを授業で行っていく。